

日本（人）もやっと覚醒したと云うべきか。ロシアのウクライナ侵攻、中国の傍若無人な振る舞い、北朝鮮の頻発する挑発に、永年小生等が主張してきた防衛力の抜本的強化の方向性が明確になった。戦後の日本の防衛政策の大転換だ。

1 安保3文書の概要（読売新聞記事）

国家安全保障戦略など3文書のポイント

国家安保戦略

- ▶ 中国は「これまでにない最大の戦略的な挑戦」と明記
- ▶ 相手からのさらなる武力攻撃を防ぐために、反撃能力を保有
- ▶ 2027年度に防衛力の抜本的強化と補完する取り組みを合わせて国内総生産(GDP)比2%を達成
- ▶ 研究開発や公共インフラ整備、サイバー安全保障、国際協力の4分野の取り組みを省庁横断で推進
- ▶ 重大なサイバー攻撃を未然に排除する「能動的サイバー防御」を導入
- ▶ 防衛装備移転3原則や運用指針の見直しを検討。官民一体で装備移転推進

国家防衛戦略

- ▶ 自衛隊に常設の統合司令部を創設。航空自衛隊を航空宇宙自衛隊に改称

防衛力整備計画

- ▶ 防衛費は23年度から5年間で43兆円程度、27年度は8兆9000億円程度確保
- ▶ 長射程のミサイルとして、米国製のトマホークを導入。国産ミサイルも開発促進

新たな安保関連3文書の位置づけ

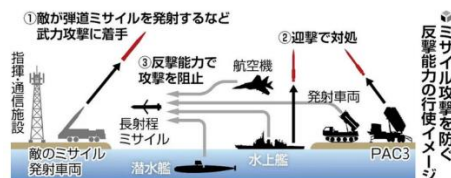
国家安全保障戦略 外交・防衛に加え、経済安保、サイバー、情報など安保政策の戦略的指針

国家防衛戦略 米国の戦略文書と同じ体系に。10年間の防衛の目標と達成手段を規定

防衛力整備計画 10年後の自衛隊の体制、5年間の経費総額や主要装備の数量を明示

反撃能力の手段として配備予定の主なミサイル

トマホーク	米国製巡航ミサイル。射程1250キロ以上。2026年度にも部隊配備
12式地对艦誘導弾の改良型	既存の国産装備を改良し、対地攻撃可能に。射程1000キロ以上
高速滑空弾	国産開発中。変則軌道で飛び、迎撃が困難。射程400キロを延伸
極超音速ミサイル	国産開発を計画。射程3000キロ。高速・変則軌道で飛び、迎撃が困難
JSM	ノルウェー製空対艦・空対地ミサイル。射程500キロ。航空自衛隊F35戦闘機に搭載
JASSM	米国製空対地ミサイル。射程900キロ。空自F15戦闘機に搭載



2 所見を幾つか

- ① 永年の防衛関係者の切望してきたことの大半が叶えられる見込みが立った。反撃能力（敵基地攻撃能力）、防衛費増額2%、後方（継戦能力）に十分な配慮
- ② 財源論 正論を主張した首相と異論を唱えた自民党幹部の暗闘
首相の正論が国民の理解を得られるのであれば、日本国民も成熟したと云うべきだ。
- ③ 米国はじめ関係国は歓迎、一方露・中・北は猛反発 織り込み済み
- ④ 着実な実行こそ抑止力の要
- ⑤ 先の安保法制の整備に引き続くターニングポイント
- ⑥ 残る課題は憲法改正（自衛隊の位置付け、非常事態関連法）
- ⑦ 反対運動の盛り上がり無きは、国民の認識・意識の変化の証左
- ⑧ それにしても此処に至るまでに時間の掛かることよ。民主主義国の宿命ならでわだ。
- ⑨ 防衛力完成までの防衛に万全を期すべし。

(了)